



# 第38回

# 中四国精神保健福祉士大会 徳島大会

## 大会テーマ

精神保健福祉士 P S W のあゆみかた  
～たのしみはつながりの中に、つながりはかかわりの中に～



世界初！DMV



## 開催日

2023年11月25日土・26日日

## 会場

あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)  
ハイブリッド形式(会場参加 + オンライン参加)

〒770-0835 徳島県徳島市藍場町2丁目14番地

## 大会プログラム

11月25日

基調講演 『精神保健福祉士 P S W のあゆみかた』  
相川 章子先生 (聖学院大学心理福祉学部教授)

シンポジウム 『世代をこえて P S Wのあゆみを紐解く』

宮武 瑞希氏 (林道倫精神科神経科病院 / 岡山県)  
青木 美紀氏 (すおうメンタルクリニック / 鳥取県)  
山本 真里氏 (医療法人つくし会南国病院 / 高知県)

11月26日

分科会1 『地域移行支援 いってみよう やってみよう』  
分科会2 『小さなアクション 大きな未来  
～えっ？まさかそんなこともソーシャルアクション！～』  
分科会3 『若手P S Wよ、大志を抱け！』  
分科会4 『つながろう！ ～“LIFE”を変えたそれぞれのWRAP～』  
市民公開企画 映画上映  
『夜明け前～呉秀三と無名の子供たちの精神障害者の100年～』



主催

第38回中四国精神保健福祉士大会徳島大会実行委員会  
徳島県精神保健福祉士協会

# 大会長挨拶

第 38 回中四国精神保健福祉士大会徳島大会の開催にあたり、主催者を代表してごあいさつ申し上げます。

今大会は、対面とオンラインによるハイブリッド形式での開催といたします。岡山大会以来 3 大会ぶりの対面、そしてコロナ禍において発展したオンラインの両方のメリットを活かした大会を目指していますので、多くの方にご参加いただきやすいのではないかと考えております。また、一部のプログラムについては、後日オンデマンド配信を予定しております。

コロナ禍において、感染症予防という名の下に私たちの生活もソーシャルワークさえも変容を余儀なくされ、たくさんの制限を受け、多大なる影響を受けました。その中で、かかわることが何ものにも代えがたく必要であるということや、つながることがかけがえのない重要なものであるということ、私たちは身をもって体感しました。そして、どんな障壁にも歩みを止めず、真摯に向き合い続けることが、私たち精神保健福祉士としてのあゆみであることを改めて認識しました。

そこで大会のテーマは「精神保健福祉士〈PSW〉のあゆみ方～たのしみはつながりの中に、つながりはかかわりの中に～」としました。

精神保健福祉士としての私たちは、PSW として歩んできましたが、今や MHSW と名称を変更するほどに実践の場を拡げています。〈PSW〉としての私たちのあゆみは、領域や時代、個々の精神保健福祉士によってそれぞれです。それでも私たちは、かかわり、つながることではか得られない〈PSW〉としてのたのしみをこの大会を通してみなさまと共有し、新たなあゆみへとつながる機会となりますことを願っています。

それでは、徳島の地で、みなさまにご参加いただけるべく大会準備を進めている実行委員とともに、ご参加を心よりお待ちしております。

第 38 回中四国精神保健福祉士大会 徳島大会 大会長 小谷 尚子

# 大会趣旨

中四国の地で精神保健福祉士大会は、綿々と受け継がれ、今回で 38 回目を迎えます。それは、コロナ禍において、日々の暮らしを制限せざるを得ないなかでも、変わりなく開催され、ソーシャルワークの実践を深めてきました。

徳島でも中四国精神保健福祉士大会を通して、私たちはどのような状況にあっても、〈PSW〉としてあゆみ続けていくことの必要性を「かかわり」、そして「つながり」を通して実感できる機会としたいと思います。

11月25日(土)

11:30	受付開始
12:30	開会式
13:10 )	<b>基調講演「精神保健福祉士 PSW のあゆみ方」</b>  講師 相川 章子 先生 (聖学院大学 心理福祉学部 教授)  本講演は、主にピアサポートやリカバリーについて専門に講演や研究をなさっている相川章子氏に登壇していただきます。講師の精神保健福祉士としてのあゆみについて講演していただき、講師があゆみ続ける原動力は何なのか、また、あゆみの中で感じる精神保健福祉士としての「たのしみ」や「つながり」「かかわり」についても示していただきます。講師のあゆみの中から、我々精神保健福祉士は何を受け取り、何をつなげる必要があるのかを感じ、受け止めてほしいと考えています。
14:40	休憩
15:00 )	<b>シンポジウム「世代をこえて PSW のあゆみを紐解く」</b>  シンポジスト 宮武 瑞希氏 (林道倫精神科神経科病院／岡山県) 青木 美紀氏 (すおうメンタルクリニック／鳥取県) 山本 真里氏 (医療法人つくし会南国病院／高知県)  講評 相川 章子氏 (聖学院大学心理福祉学部教授／東京都) 進行 黒下 良一氏 (第一病院／徳島県)  「若手」「中堅」「ベテラン」の各年代からご登壇いただき、それぞれの活動や取り巻く環境についてお話をいただきます。3名の「今」や「あの頃」、「これから」の中に、みなさま自身にとっても「あ、一緒だ!」と共感できる何かが必ず見つかるのではないのでしょうか。年代や地域が違ったとしても、変わりゆくものがあっても、「変わらない、変わってはいけないもの」を一緒に再確認し、大切な「想い」を共有できる、そんな時間にしたいと考えています。
17:15	中四国連絡会
18:30	懇親会 受付 会場：ザ・グランドパレス徳島4階オークルーム
19:00	懇親会

11月26日(日)

09:00	開場
	<p><b>分科会 ハイブリッド「地域移行 いってみよう やってみよう」</b></p> <p>登壇者 岡 陽子氏(山口県立こころの医療センター/山口県) 受川 名央美氏(医療法人十全会自立訓練事業所 国領荘/愛媛県) 三原 裕美子氏(社会福祉法人凌雲福祉会 障がい者生活支援センター凌雲/徳島県)</p> <p>■私たちが会おう方々が地域で暮らす喜び・豊かさを感じられるために、明日からできることを共に考えてみませんか？</p> <p>この分科会は、地域移行支援がもっと身近でもっと楽しく取り組めるきっかけとなることを目指しています。当日は、医療・福祉分野で活躍されている私たちの仲間が登壇、それぞれの立場で地域移行に対する思いや取り組みを共有して頂いた後、参加された皆様が悩みや希望など自由に話せる機会を設ける予定です。</p>
09:30	<p><b>分科会 対面「小さなアクション、大きな未来 ～えっ？まさかこんなこともソーシャルアクション！～」</b></p> <p>登壇者 原田 葉子氏(株式会社ダイキ 地域生活支援センターふれあい/広島県) 竹井 美希氏(医療法人社団光風会 三光病院/香川県) 河野 竜也氏(社会福祉法人小渦会 鳴門シーガル病院/徳島県)</p>
12:00	<p>■あなたはいつソーシャルアクションを行いましたか？地域や行政を動かすことだけがソーシャルアクションであると考えたら「難しいこと」だと感じませんか。もし、日常業務の中ですでに行っていた事や、出来そうだと感じる事が、実はソーシャルアクションだと気づけば、ソーシャルアクションがもっと身近に感じる事が出来ると思います。</p> <p>このテーマではソーシャルアクションの「気づき」に着目し、小さな波(アクション)が、やがて鳴門渦(未来)に繋がる機会にしたいと考えております。</p>
	<p><b>分科会 対面「若手PSWよ、大志を抱け！」</b></p> <p>■コロナ禍であったここ数年、オンライン上での研修や会員同士の交流が殆どだったと思います。今年は3年ぶりの現地開催であり、本分科会では名刺交換やグループワークを通して、語り、考え、次世代を担っていくPSWとして「大志」を抱く時間にしたいと考えています。肩ひじ張らずのんびり、和気あいあいとした雰囲気の中、明日からの活力につながる場にできたらと思っています。</p> <p>■参加対象は、1年目～6年目の若手PSW(有資格)です。</p> <p>■名刺交換やパンフレット紹介を予定している為、参加される方は名刺、各事業所のパンフレット等をご持参ください。</p>

	<p><b>分科会 オンライン「つながろう!</b>  <b>～“LIFE”を変えた それぞれのWRAP～</b></p> <p>登壇者 安藤 里恵子氏(一般社団法人りぐらっぷ高知/高知県)  原 敬氏(社会医療法人清和会/島根県)  うさぎちゃん(WRAPファシリテーター/徳島県)</p> <p>■参加条件:ありません。初心者～経験者、どなたでも大歓迎です!  ■WRAP(元気回復行動プラン)の概要説明とグループワークの後に、WRAPファシリテーターとして活躍されている方をお迎えし、それぞれの立場や視点から、自身のメンタルヘルスや生活の質の向上、業務や暮らしの中の変化を、事例を交えてお話しいただきます。</p> <p>WRAP経験者だけでなく初めての方も楽しみながら学べる回です。コロナ禍で止まっていた『繋がり』を再開しましょう。自己発見と豊かなメンタルヘルスへの第一歩。ご参加をお待ちしています!</p>
12:15	閉会式
12:30	市民公開企画 受付開始
13:30 ) 14:40	<p><b>市民公開企画 映画上映 ハイブリッド</b>  <b>『夜明け前～呉秀三と無名の精神障害者の100年～』</b></p> <p>精神科医である呉秀三が「精神病者私宅監置ノ実況」論文発表100年を記念し、日本精神衛生会ときょうされんが共同で制作したドキュメンタリー映画を、大会終了後、ハイブリッド上映いたします。これまでに見逃してしまった方も、既に見たことがある方も、この機会に視聴されませんか?そしてこれからの、私たち精神保健福祉士(PSW)のあゆみかたを考える1時間にしましょう。</p>

## [ 申込方法 ]

- 開催形式:ハイブリッド形式(会場参加+オンライン(ZOOM))  
※2日目の分科会について、分科会ごとに開催形式が異なっています。
- 参加対象:精神保健福祉士もしくは、関連領域の専門職  
精神保健福祉士養成課程で学ばれている学生
- 参加費用:会員6,000円、非会員7,000円、学生2,000円、懇親会費6,000円  
※会員とは「都道府県精神保健福祉士協会会員」もしくは「(公社)日本精神保健福祉士協会構成員」を指します。
- 申込方法:お申し込みは大会特設ホームページの「参加申込」  
<https://tokushimapsw.wixsite.com/tyuushikoku2023>  
もしくは右QRコードよりお申し込み下さい。  
Select type メールフォームからのお申し込みとなります。  
2023年9月4日(月)より申し込み受付を開始いたします。  
申し込み〆切 11月4日(土)
- 分科会について:2日目の分科会をご希望の分科会を入力して下さい。  
(希望者多数の場合、調整をさせていただくことがございます。あらかじめご了承下さい。)
- 懇親会について:懇親会参加を申し込まれる方は、大会の「参加申込」の際にご入力下さい。  
懇親会のオンライン参加は無く、会場参加のみとなります。



## 【大会参加にあたっての注意事項】

### 1、メール設定について

お申込み完了後、事務局より受付完了のメールや ZOOM ウェビナー、ミーティングについての案内（オンライン参加の方のみ）、事務局からのお知らせなどを送信いたします。

toku.psw.tyuushikoku@gmail.com からのメールが受信できるように設定をお願いします。

### 2、支払方法のご案内

お申込完了後に、事務局よりメールにて参加費の支払方法をご連絡いたしますので、メールに記載されている期限までにお支払ください。

### 3、大会参加までの流れ

#### ① 会場参加の場合

お申込・参加費の支払い完了後、参加証・各種資料をメールでお送りいたしますので各自でダウンロードをお願いします。資料の印刷が必要な方は各自ご準備下さい。参加証については、当日までに各自印刷をしてご持参いただくか、データを保存していただき当日提示いただきますようお願いします。

#### ② オンライン参加の場合

お申込・参加費の支払い完了後、ご指定いただいているメールアドレスにオンライン参加用の案内をお送りいたします。

### 4、注意事項

① オンライン参加の方は必要な機器・環境は各自でご準備下さい。

- ・パソコン、スマートフォン、タブレット端末など。※パソコンでの参加推奨
- ・イヤホン、マイク、WEBカメラ。※ご使用になる機器に付属していない場合はご準備ください。
- ・インターネット環境（通信料は各自ご負担ください）

#### ② 大会参加する際のルール

- ・オンライン参加の場合、複数人での参加はできません。  
お申込者本人のみが参加・視聴いただけます。
- ・本大会の録音・録画・スクリーンショットなどは禁止といたします。

#### ③ 変更・キャンセルについて

- ・変更やキャンセルが発生した場合は必ず大会事務局までご連絡ください。
- ・キャンセルの場合、参加費を支払い済みの方については返金致しかねますので、あらかじめご了承ください。（後日、参加申込者限定でオンデマンド配信を予定しております）

#### ④ 宿泊について

- ・本大会では、宿泊先の仲介はしておりません。宿泊が必要な方は、各自ご準備くださいますようお願いいたします。

#### ⑤ 手荷物預かりについて

- ・会場にはクロークをご用意しておりません。手荷物は各自で管理をお願いします。

#### ⑥ 参加時の配慮が必要な方について

- ・大会参加の際に何か配慮が必要な方は、お申込の際に事前にお申し出ください。

### 5、個人情報保護について

- ・お預かりした個人情報は本大会のみに使用させていただきます。

# 懇親会のご案内

## 第38回 中四国精神保健福祉士大会徳島大会

# 懇親会 やるけんな!



### 開催場所 ご案内



あわぎんホールからお越しの方は、「★鳥田歯科」を目印に交差点を北側(左)に曲がってまっすぐ行くと右側にございます。徳島駅方面からお越しの方は、徳島駅前ロータリー西側にある「◆ポッポ街」をまっすぐに抜けるとすぐ右側にございます。

※ 駐車場はございませんのでご注意ください。

開催場所:ザ・グランドパレス徳島4階  
オークルーム

参加料: ¥6,000

形式: 対面のみ

日時: 2023年11月25日19時~21時

受付: 18時30分~受付開始

4階オークルーム前にて受付いたします。

お申込み方法:

申込みにつきましては、第38回中四国精神保健福祉士大会徳島大会への申込時にご一緒にお申込みいただく形となります。

ご希望の方はお忘れの無いようお願いいたします。

なんや他の県の人楽しめる  
面白い出し物もするらしいでよ(笑)

えっとぶりにみんなと飲むん  
楽しみにしてるけんな!



※当懇親会は、対面のみでの開催となります。配信等はございませんのでご了承ください。

《お問い合わせ先》 〒770-0862 徳島県徳島市城東町2丁目7-9  
TAOKA こころの医療センター内  
第38回中四国精神保健福祉士大会徳島大会事務局  
徳島県精神保健福祉士協会事務局(担当:本間)  
TEL: 088-622-5556/FAX: 088-655-5157  
MAIL: tokushimaken.psw.kyokai@gmail.com



# 夜明け前

呉秀三と無名の精神障害者の100年



我が国十何万の精神病者は実にこの病を受けたるの不幸の外に、この国に生まれたるの不幸を重ねるものというべし。精神病者の救済・保護は実に人道問題にして、我が国目下の急務と謂はざるべからず。 呉秀三

今井友樹監督作品

ナレーション 竹下景子

企画 藤井克徳/監修 広瀬徹也  
プロデューサー 中橋真紀人/撮影 小原信之/編集 古賀陽一  
協力 一般社団法人 障害者映像文化研究所/バリアフリー版制作 Palabra株式会社  
製作協力 株式会社 工房ギヤレット  
製作 記念映画製作委員会 公益財団法人 日本精神衛生会/きょうざれん/有限会社 イメージ・サテライト  
ドキュメンタリー/2018年/66分/BD

日時:令和5年11月26日(日)午後1時30分~午後2時40分(受付12時30分~)

会場:あわぎんホール(徳島県郷土文化会館) 4階大会議室

徳島県徳島市藍場町2丁目14番地

参加費:無料(申込不要)

(お問い合わせ先)

徳島県精神保健福祉士協会事務局(担当:本間)  
〒770-0862 徳島県徳島市城東町2丁目7-9  
TAOKA こころの医療センター  
TEL (088)622-5556

# 心を病んだ人々は、なぜ閉じ込められなければならないのか？

## 精神の病とは…、人間の尊厳とは…、いま突きつけられる問いかけ！



松沢病院の呉秀三肖像

呉秀三（くれしゅうぞう）は、今から百年前の時代に東京大学医学部精神科の教授として、異例の社会的な取組みを進めた先達者である。彼は精神疾患の人々が「座敷牢」に押し込まれる実情を憂い、その解決のために奔走した。その土台となった報告書『精神病者私宅監置ノ実況及ビ其統計的観察』を1918年に提起し、多方面へ働きかけた。それから1世紀の年月が過ぎた今、精神障害者の問題はどのようなものだろうか？

精神障害者をめぐる問題は一つの国の在り方を左右する重大なものであり、欧米でも改革が進められている。何故なら、

人口の1%プラスアルファが精神疾患を発症するという前提のもと、全ての国民が理解と対処を迫られているからである。

しかし、古い時代から現在に至るまで、精神病は誤解と偏見、差別の対象となり、この病を持つ人々と家族は苦しみと犠牲を強いられている。2017年12月の「寝屋川市監禁死亡事件」、2018年4月の「兵庫県三田市監禁事件」の報道は、多くの人々に衝撃を与えた。しかし、このような事例はまだ少なからず存在すると関係者は指摘する。こうしたタイミングで、この課題に一貫して取り組んできた精神医療保健の専門家組織である公益財団法人 日本精神衛生会と、障害者福祉の土台を支えて40周年を迎える きょうされん（旧称：共同作業所全国連絡会）が提携して製作したのが本作である。

長編第1作『鳥の道を越えて』で高い評価を得た今井友樹監督（工房ギャレット代表）が、先輩である小原信之カメラマン（民俗文化映像研究所代表）とタッグを組み、2003年の記録映画の最優秀作として注目を集めた夜間中学の



資料館の「拘束具」

記録映画『こんばんは』（毎日映画コンクール記録文化映画賞／文化庁映画大賞）の編集を担った古賀陽一編集マンを迎え、その『こんばんは』、重度重複障害児を育てる家族を描いたアニメ『どんぐりの家』（きょうされん20周年／山本おさむ原作・脚本）や、精神障害者の社会復帰を描く劇映画『ふるさとをください』（きょうされん30周年／脚本：ジェームス三木）で指揮をとった中橋真紀人プロデューサー（イメージ・サテライト代表）のもとでパッションとパワーを注いだ。

呉秀三研究の第一人者・岡田靖雄先生（精神科医療史研究室代表／元・松沢病院医師）、「座敷牢」問題の調査研究を続ける橋本明先生（愛知県立大学教授）、日本の精神科医療のトップに位置する都立松沢病院の齋藤正彦院長というキー・パーソンへのインタビューを軸に構成された本作品は、これまでの100年を見つめ直し、これからの100年を考える貴重な映像的素材と言えるだろう。

作品の中に登場する資料には、現存する2冊のみの「私宅監置」報告書（1冊は岡田先生の手元に、もう1冊は国会図書館！）、呉秀三の初めての著作の初版本、家族にあて欧州から送った絵葉書（既に所在不明！）、秘蔵されていた数枚の写真（東大医学図書館に保管）などがある。日本で初公開！呉秀三の欧州留学先での足跡——彼が1900年前後に留学・視察したベルギーとオーストリア（ウィーン大学）に残されている「自筆の署名」を求めて海外ロケを敢行し、彼の下宿アパートもカメラに収めてきた。



海外ロケ（ウィーン）

### 今井友樹監督作品

#### 勇気をもって前へ

立教大学教授 香山リカ  
いつの時代も、社会を前に進めるのは、ひとりの気づきとそれに触発された大勢の仲間たちです。いまも心の病を持つ人たちが正しく理解され、その人権が十分に守られているとはとても言えません。

しかし、彼らが私宅監置などのもっとひどい処遇をあたりまえに受けていた時代に、呉秀三はそのおかしさに気づき、病者に治療と福祉の光をあてようとしたのです。私も本作から多くを学び、勇気づけられました。

## 夜明け前 呉秀三と無名の精神障害者の100年

[ドキュメンタリー／2018年／66分]



今から100年前  
精神病に有効な  
治療法が無かった時代  
座敷牢に  
幽閉された精神病者を  
救おうと奔走した  
一人の男がいた

## 夜明け前

呉秀三と無名の精神障害者の100年

#### 夜明けを迎える一助として

きょうされん専務理事 藤井克徳  
「呉秀三を正確に知ってほしい」——本映画企画の最大の動機です。あの「座敷牢調査」から100周年という節目の力を借りて伝えたいのです。呉秀三の言動が現代日本にして何ら色あせることなく、そっくり今に通用しており、「この国に生まれた不幸」は、見方によっては当時よりも真に迫っているのではないのでしょうか。呉秀三の言動が名実ともに古めかしく感じられる社会をどう作っていくか、障害当事者や家族の一人ひとりが本当の夜明けをいかに実感できるか、本映画がその一助になることを願っています。

(日本精神衛生会理事)